都市計画道路における多機能性評価手法に関する研究

岐阜大学 ○明ヶ谷隆 高木朗義 倉内文孝 出村嘉史

1. はじめに

今日まで、都道府県や市町村で多くの都市計画道路が整備されてきた。しかし、社会情勢が変化し将来的に自動車交通量の増加が見込まれない現在において、都市計画道路の見直しが求められている。しかしながら、都市計画道路は本来自動車交通のためだけに整備されるものではなく、将来的な都市像に必要な要素として位置づけられるものである。この点についての議論が十分なされていないことがこのような誤解を生む原因となっている。したがって、都市に必要な要素である道路機能に着目した評価を行うための新たな指標が必要である。本研究では都市計画道路の多機能性について精査・抽出し、評価手法の開発を目標とする。

具体的には、まず都市計画道路の概念を明確にするため、関連する法令を取り上げ、各法令における都市計画道路の捉え方に関して整理する。次に都市計画道路が保有する道路機能を整理し、評価項目を抽出する。

2. 関連法令から見た都市計画道路の位置づけ

都市計画道路の定義が、都市計画の関連法令（都市計画法、道路法、道路構造令）には明確に記載されていない。そこで、関連法令において都市計画道路、あるいは道路という用語がどのように扱われているかについて整理した。

都市計画法は、都道府県や市町村で作成されている都市計画に関して規定している法律で、建築物の制限や都市基盤の配置などの計画に影響を与えている。その中で都市計画道路は、都市施設の1つとして位置づけられ、都市計画区域では公園、下水道と合わせて、少なくとも定めなければならぬとされている。

他方、道路法・道路構造令は、主に道路の構造などを規定している。その中で道路を、『一般交通の用に供する道』として定義している。

以上を整理すると、関係法令において都市計画道路は都市計画で定める項目の1つであるため、都市計画法の考え方や方針を踏まえる必要がある。また当然ながら、都市計画道路も道路の1つであるため、道路法や道路構造令で定められている道路という要素も考慮しなければならない。したがって本研究では、都市計画道路を次のように解釈することとする。

『都市計画道路とは、都市計画法で定められた都市施設の1つで、都市交通の円滑化や都市構造の構築、

地域コミュニティの形成に供し、以て公共の福祉の増進に寄与するために都市計画によって計画、又は整備された道路を指す。』

本研究では、この解釈に基づいて、都市計画道路も多機能性について評価項目を抽出する。

3. 都市計画道路見直しガイドラインから見た都市計画道路の機能

道路機能とは、道路を利用することによって、又は道路が存在することによって都市や社会にもたらす効果を表したものである。道路機能の整理を行った結果に2.で行った法令整理の結果を踏まえ、都市計画道路の評価を行う項目を抽出する。

本研究では、全国の都道府県で策定されている『都市計画道路見直しガイドライン』（以下、ガイドラインとする）を整理した。ガイドラインとは、都市計画道路の見直しを行う手順やチェック項目などを示したものである。近年、各都道府県において都市計画道路の見直しが行われるようになり、見直しを行う上でチェックすべき重要なポイントや、見直し対象を抽出する為の手順などを示したガイドラインの作成を行っている。その結果、都市計画道路が変更・廃止となるケースも増えてきている。そこで、各ガイドラインに挙げられた道路機能を整理し、使われている都道府県や、見直しにおける重要性などを精査することで必要な道路機能を抽出した。

ガイドラインの整理を行うことによって、各都道府県は都市計画道路にどのような機能を求めているかを整理することができる。そして、都市計画道路に存在する機能を知ることができる。ただし、ガイドラインは見直しに関するものであることに留意する必要がある。

表-1に各都道府県で挙げられている道路機能を整理した。各道路機能の分類は『都市計画運用指針』²⁾に基づいて交通機能、空間機能、市街地形成機能の3グループに分けて示した。緑色で示した6県はガイドラインが非公開であった。赤色で示した15道県は『都市計画概論』³⁾を参照しており、『都市計画概論』で挙げられている機能は多数派を形成している。交通機能は、主に通行機能(トラフィック機能)に関して様々な機能が挙げられた。空間機能は、防災に関する機能